

小湊観音

北春日部駅の西方、古利根川の小湊橋を経て四号国道を右折約百^{以上}程の所に修験宗小湊山正賢寺。別名小湊観音院という御堂がある。堂宇五間四方の中に、正観世音菩薩が安置されている。市内で唯一の楼門（文化財指定）を有する観音信仰の霊場として知られている。

『新編武蔵風土記稿』幸手領小湊村観音院の項に「本山派修験京都聖護院末安永二年（一七七三）正月行事職を許さる小湊山正賢寺と号す。本尊正観音慶安二年（一六四九）住持玄通が書し縁起有によれば古き像なるべし中興開山は尊慶と云年代を知らず」と記されている。これまでの口碑によれば正嘉二年（一二五八）八月古利根川氾濫の折、付近の里人が流木を薪にしようとして斧を当てたところ稻妻が出て眼が眩みその場に倒れてしまったので驚いて調べて見ると流木の中に仏像があったので堂を建て安置した。永和二年（一二七六）本堂を修理。元禄二年（一六八九）山門建立。文政八年（二八二五）本堂修理となっている。

昭和四十九年住持の故尾花三省師の口述によると、本尊正観世音菩薩はその昔洪水でこの地に流れ着いたもので村人が溺れそうになった際御像に助けられたのでこの像を祀ったが、観音像は今の杉戸方面から流出した

ものとわかり元の地へお返ししたところその後再び洪水があり御像が流出し、現在の春日部大橋附近の河岸で発見され村人は「これは観音様がこの地に留まるご意志である」と悟り近くの正賢寺に安置された。

以来観音信仰が始められた。最初に安置された場所をいまも観音元屋敷と云う。現在地に移されたのが正嘉二年（一二五八）であると伝えられている。

小湊山正賢寺は承安元年（一一七一）開基で天台宗であった。その後修験宗に改め室町時代に修験道のつし頭となっている。

小湊村には修験宗で関東の大本山と云われた不動院がこの近くにあったが明治初期の廃仏忌積令にて廃寺となった。正賢寺は不動院の客分の資格を有する寺であったが観音信仰の霊場であったところから廃寺にならずいまに続いている。観音院では六十年に一回丙午の年に本尊衣替えの行事が行なわれるこの行事は真夜中に灯火を消して暗やみの本堂で厨子から像を出して、仏体を包む真菰を新規のものに取り替える儀式である。昭和四十一年丙午の時には尾花三省師の発案で昼間この行事を執行。信者にも拝む機会を与えた。

本尊を調査したところ非常に古いもので荒けずりの木地観世音菩薩像で年代推定は平安期か飛鳥時代の作であると鑑定された。

毎年八月十日を四萬六千日と称し例祭が行なわれている。戦前にはその年に嫁となった人達が花嫁衣裳で参詣したり、飾り付をした馬をひいて参詣等で賑わっていた

この観音様は別名「イボ取り観音」とも称されイボ・コブ・アザ等をとる靈験があるとされ、信者は祭日までに初豆を食べない習慣がある。

初出「広報かすかべ 昭和五十六年一月」かすかべの歴史余話